　東京都多摩市聖蹟桜ヶ丘駅から少し離れた閑静な住宅街。
　大晦日の夜。

ACT 1
バンダナを巻きマスクで口元を隠した細身のマシマ（26 歳)、ニット帽をすっぽり被り黒いマスクをつけた小柄なシノブ（23 歳）の二人がイスラム帽を被りゴルチエ（偽物）の丸いサングラスをした小太りの伴（30 歳）を先頭にして歩いてくる。

　伴はスマホに目をやりながら歩いている。

伴：メールだとこの辺なんだけどな････ちょっと待ってろ

　伴はスマホを見ながら歩いていく。

マシマ：着いちまったな
シノブ：ああ
マシマ：あいつ大丈夫だと思うか？絶対勘違いしてんだろ
シノブ：ポケットの中
マシマ：後で確認するよ
シノブ：頼む
マシマ：こんなところでも人材不足なんだな
シノブ：まともなやつはこんな仕事しねぇよ
マシマ：違いねぇ
シノブ：お前、初めてか？
マシマ：なんでだ
シノブ：落ち着いてっから
マシマ：いや、初めてだ。お前は？
シノブ：オレもだ。最初で最後にしたいもんだ
マシマ：本名か？シノブって
シノブ：‥源氏名
マシマ：ホストか
シノブ：そんなとこだ
マシマ：稼げねぇのか？
シノブ：まとまった金が入り用なんだ。お前は？
マシマ：コールセンターつうか、サポートデスクってとこだな
シノブ：そのなりでか？いや、悪い。

マシマ：気にしてねぇ。あいつ本名じゃねぇよな？
シノブ：そこまでバカじゃねぇだろ
マシマ：聞いてみようぜ

　　　伴が小走りで戻ってくる。

伴：この先の奥だ！改装中みたいで白いシートも張ってあったぞ！これなら人目につかな―
マシマ：なぁ、伴
伴：なんだよ
マシマ：お前、本名か？
伴：ああ。マジマ‥だったよな？お前は違うのか？
マシマ：オレの名前はマシマだ。濁点をつけるな
伴：‥気をつけるよ
シノブ：‥お前、そんな悪いやつでもなさそうだな
伴：どうしたんだ？緊張してんのか？
マシマ：確認しとこう。取った現金の半分はあいつらの口座に振り込む。残り半分はオレたちで三等分する
シノブ：オレが勝手口のガラスを割って鍵を開ける。中に入ったら‥さっさと金を頂いて‥ずらかろう
伴：溜め込んでるといいな
マシマ：どうだかな
シノブ：なんか知ってんのか？
マシマ：いや、詳しくは聞かされてない
シノブ：頼むぜ、サポートデスク
マシマ：うるせぇよ
伴：もしも住人と出くわしたら‥‥どうする？
シノブ：年寄りしかいねぇって話だろ
マシマ：そんときは‥少し大人しくしてもらうさ。それよりお前、ポケットの中身出せよ

　　　伴はコートのポケットを押さえる。

マシマ：見せてみろ
伴：なにも入ってねぇよ
マシマ：勘弁しろよ。殺しに行くわけじゃねぇんだぞ
伴：ち、違う

シノブ：伴！早く出せよ
伴：でも
マシマ：いいから出せ！

　　　伴はポケットから小さな観葉植物を出す。

マシマ：なんだよ、これ
伴：手入れをしてるんだ
マシマ：ふざけてんのか？
シノブ：いいから好きにさせとけよ

　　　舌打ちするマシマ。

マシマ：あいつらの言いなりになってたまっかよ

　　　マシマを見るシノブ

伴：持っててもいいよな？
シノブ：終わったらオレが教会に植えといてやっから
伴：オレ死んじゃうの？
シノブ：マシマ、そろそろ
マシマ：ああ

　　　歩き出そうとするマシマ。

伴：子供がいたら助けるだろ？
マシマ：年寄りしかいねぇって言ったろ
伴：もしもだよ、もしも！
シノブ：行こう

　　　シノブとマシマは歩き出す。
　　　ポケットに観葉植物を入れる伴。

伴：待ってくれよ！

　　　追いかける伴。

　　　シノブは立ち止まる。

シノブ：なにしに行くかわかってるか？

　　　コクコク頷く伴。

シノブ：じゃあでかい声は出すな

　　　コクコク頷く伴。
　　　ため息をつきながら足早にマシマを追いかける。
　　　暗闇に姿を消す三人。

ACT2
　　　電気が消され、テレビの薄明かりだけの部屋。
　　　リビングのソファで眠っている穂乃子。
　　　勝手口扉付近から声が聞こえる。

マシマ：大丈夫か？

　　　シノブは手にバンダナを巻いている。

シノブ：少しガラスで切っただけだ。お前が押すからだ
伴：押してないって
マシマ：早く金を盗んで手当てしよう。伴とシノブ、お前らは一階を頼む。

　　　頷く伴とシノブ。

マシマ：人がいてもパニクるなよ
伴：了解
マシマ：オレは 2 階を見てくる。無理はするなよ

　　　マシマは 2 階へ向かう。
　　　シノブと伴は静かに奥へ進む。

伴：シノブ
シノブ：なんだよ

伴：お前いいにおいするな
シノブ：キメェんだよ
伴：しっ！何か聞こえないか？
シノブ：‥‥テレビの音？
伴：人がいるってことか
シノブ：‥かもな

　　ゴクリとツバを飲み込む伴。

シノブ：オレが中の様子を探るから、合図したらお前は奥の部屋に行け
伴：一人で大丈夫か？
シノブ：平気さ、年寄りだけだろ
伴：でも‥
シノブ：オレは金が必要なんだ。お前もだろ。多分あいつもだ
伴：‥奥の部屋は任せろ

　　シノブはゆっくりと慎重に声の聞こえる方へ足を進める。
　　わずかに明かりが漏れるリビングをそっと覗くと寝ている穂乃子の姿を確認する。
　　シノブは伴に手招きをする。
　　ゆっくり近づく伴。

シノブ：おばさんが一人

　　頷く伴。
　　シノブは伴に行けと手で奥の部屋を指し示す。
　　伴はゆっくりと奥の部屋へ向かう。
　　伴がリビング前の廊下を通り過ぎても起きる様子のない穂乃子を見て、シノブは静かに息を吐き出す。
　　シノブは音を立てないようにリビング内へ侵入する。

シノブ：目覚まさないでくれよ、おばさん

　　ゆっくりと部屋の中の入り、音を立てないように慎重に物色を始める。
　　サイドボードの引き出しを開けて金品や現金を探す。
　　ふとサイドボードに飾られた写真を見るシノブ。
　　写真の笑顔の女性を見た後、後ろで眠りこける穂乃子に目をやる。

　　鏡に写る自分の姿が目に入りハッとするシノブ。
　　頭を振って再びサイドボードの中を物色しようとしたとき、だれもいないはずのキッチンからバターンという戸棚を乱暴にしめたような大きな音がする。
　　驚いて身を伏せるシノブ。
　　ソファで眠りこけていた穂乃子も目を覚ます。

穂乃子：‥だれ‥？

　　穂乃子は大きくため息をつく。
　　穂乃子は辺りを見渡し、人の気配を感じる。

穂乃子：‥‥だれかいるの？

　　立ち上がる穂乃子。

穂乃子：いるんでしょう？でてきなさい！人を呼ぶわよ！

　　テーブルの上のスマートフォンを掴む穂乃子。

シノブ：待ってくれ！
穂乃子：だれ！あなた！
シノブ：大きい声は出さないでくれ！

　　廊下からアコースティックギターを持ったマシマが姿を見せる。

マシマ：おばさんに危害は加えない。約束する
穂乃子：そんなこと信じられるもんですか！

　　マシマは穂乃子から視線を外さずにゆっくりと丁寧にギターを床に置く。
　　その仕草を見つめる穂乃子。

マシマ：乱暴はしない、約束する。なにも武器は持ってない
シノブ：頼むよ、暴れたりしないでくれ。手荒なことはしなくないんだ

　　両手を広げ敵意がないことを示そうとするシノブ。
　　穂乃子は手から血を流すシノブに気づく。

穂乃子：その手
シノブ：なんでもない。勝手にドジっちまっただけさ
穂乃子：本当に危ないものは持ってないの？
シノブ：ホントだよ
マシマ：ここに来る前に武器とかも捨てさせたんだ。オレ達は人殺しに行くわけじゃないって
穂乃子：そこの後ろの人は？
伴：拙者も観葉植物しか持ってないでござる！
穂乃子：三人だけ？あとはだれもいない？

　　頷く三人。

マシマ：この業界も人手不足なんだ
穂乃子：見せてみなさい
シノブ：えっ！でも‥
穂乃子：乱暴しないっていうのは嘘なの？
シノブ：嘘じゃないよ！

　　穂乃子は立ち上がり電気をつける。
　　眩しさで 4 人は目を瞑る。

ACT3
　　床に座り穂乃子がシノブの手を手当てしている。
　　マシマと伴はその様子を見守っている。
　　マシマのスマホが鳴ると、マシマは立ち上がり少し離れた所に移動して文面を確認する。
　　マシマはしばらく思いにふける。

　　チーンと呼び出しベルの音が聞こえる。
　　金髪でバンドマン風の男が入ってくる。

男：電話で融資をお願いしたんですけど‥
マシマ：お名前は？
男：中島です
マシマ：身分証と通帳は持ってきた？

男：はい

男はカバンから通帳と身分証をマシマに渡す。

マシマ：コピー取ってくるから、そこに座ってて

男は椅子に座る。
マシマは男を一瞥してコピーを取りに行く。

マシマ：じゃあこれ返すね
男：ありがとう御座います

マシマは突然人が変わったように乱暴な口調になる。

マシマ：おたくさ、借り入れの総額はいくらあんの？
男：えっ？
マシマ：だから、何社から借り入れがあって、全部合計するといくらになんのかって聞いてんの！
男：二社で、六十万です
マシマ：とぼけてんでじゃねぇぞ、この野郎！ショッピングとかローンは？
男：ショッピングが 10 万あります
マシマ：嘘ついてもわかんだぞ？
男：ホントです！それで全部です
マシマ：今までこういうとこで借りたことあんの？なんでうちに申し込んだの？
男：オレ、こんななりだし銀行とかは相手にしてくんないだろうなって‥こういうとこは今日が初めてで DM で一本化出来るって書いてあったから‥毎月分けて払うの大変で‥。
マシマ：仕事は？
男：新聞屋で配達のバイトやってます。東京の新聞配達って給料高くて無料で寮もあるし‥バンドやってて、朝と夕方の配達終われば自由時間だから
マシマ：勤続年数は？
男：大体 3 年くらいです
マシマ：‥‥
男：ほんとに嘘ついてないです！
マシマ：何に使うんだ？
男：出来れば一本化したいってのがあります‥‥けど

マシマ：けど？
男：‥チケットノルマに‥オレらそんなに売れてないから全部手売りで‥毎回 30 枚は売らないといけなくて‥。
マシマ：いくらすんの？
男：3500 円っす
マシマ：だれも買わねぇだろ？
男：はじめのうちは付き合いで買ってくれたんすけど‥段々迷惑がられるようになって
マシマ：だろうな
男：なんとかお借りできればと思ってます

　　マシマは大きな声で男を脅しつける。

マシマ：‥テメェ、なめてんじゃねぇぞコラァ！

　　男は驚き声も出ない。

マシマ：フカシばっかこきやがって！
男：ホントっす！
マシマ：表に出ろ、オラ！
男：ホントなんす！勘弁してくだい！

　　胸ぐらをつかみ外に連れ出すマシマ。

男：借りれないと困るんです！お願いします！
マシマ：いいから、出ろコラァ！

　　マシマは外に出ると手を離す。

マシマ：‥‥その辺にある、無人君とかそういうとこ行けよ。貸してくれっから
男：えっ！？

　　マシマはタバコに火をつけ深く煙を吸う。

マシマ：こんなとこで借りたら人生終わっちまうぞ。なにも知らねぇんだろうけど、1 回に何件も申し込みすんな。申し込みブラックつって、審査通るのにそれだけでブラックリストに上がって通らなくなっちまう。しばらくしたら黄色い看板とか宇宙人が貸してくれ

るとことか、犬がコマーシャルやってるとこに申し込んでみろ
男：‥すぐ必要なんす
マシマ：新聞屋ならワケありの人も多いだろ？前借りできねぇのか？
男：先月も前借りしちゃって‥。
マシマ：じゃあ今月も頭下げて前借りしろ。恥ずかしいかもしんねぇけどバンドできなくなるよりずっとマシだろ
男：‥‥
マシマ：こういうとこは 5 件も 6 件も借り入れしまくって、支払いも滞納してどうしようもなくなったやつがその日を食いつなぐために借りにくるとこだ。返せるあてもねぇのに‥人生終わっちまうぞ
男：はい
マシマ：新聞屋は飯出るのか？
男：朝刊と夕刊終わったら飯出ます
マシマ：さっさと帰って、配達して飯食って腹いっぱいにしろ‥オレも新聞配達でもすっかな
男：‥‥うちの所長に紹介しますよ。新聞配達なんか年中人手不足ですから
マシマ：そん時は頼むよ‥早く帰れ
男：‥ありがとうございます
マシマ：もう来んなよ

　　男はマシマに何度も頭を下げながら帰っていく。
　　マシマはタバコを捨てて店に戻ろうとする。
　　奥から金髪で派手なシャツのチンピラ（24 歳）が出てきて、マシマの胸ぐらを掴む。

チンピラ：マージーマー！随分カッコつけてんじゃねぇの
マシマ：すんません
チンピラ：テメェ、うちらの仕事わかってんのか？
マシマ：わかってます
チンピラ：いーや、そのツラはわかってねぇなぁ。教えてやっから、ちと中に入れ

　　チンピラは乱暴にマシマの首元を掴み中に引きづっていく。
　　マシマが倒れると何度もケリを入れるチンピラ。
　　ニヤニヤ笑った兄貴分（28 歳）が入ってくる。

兄貴分：何やってんだ？客のいる前で

チンピラ：こいつ、融資の申し込みに来たお客様を帰しちまったんですよ
兄貴分：どうした？マジマ。困ってる客を帰しちまうなんて薄情なやつだな
チンピラ：前も俳優志望だかなんだかの客を帰しちまった時に、きっちりヤキ入れてやったんですが、まだわかってねぇみたいなんですよ
兄貴分：うちは、トイチでやってる善良な金融業者なんだよ。よそさんはトゴで貸して、利息払わして、ジャンプさせて‥それもできなくなったら、仲間内の業者でまた借り入れさせて、回して潰しまうんだ
マシマ：わかってます
兄貴分：優しいだろ、オレ？
マシマ：‥‥
チンピラ：返事しろや！

　　チンピラはマシマにケリを入れる。

兄貴分：ウチで金借りといて、利息も払えねぇ、元金も減らねぇって泣きついてきたから、こうして働かしてやってんじゃねぇか
マシマ：‥‥‥社長‥‥
兄貴分：‥なんだ
マシマ：‥‥抜けさせてもらえませんか？
チンピラ：なんだと？テメェ！
兄貴分：話してみろ
マシマ：すんません、オレ金貸しには向いてねぇみたいで‥
チンピラ：仕事は向き不向きでやるもんじゃねぇんだよ！
兄貴分：たまにはいいこというじゃねぇか。そういうオメェはこの仕事イヤイヤやってんのか？
チンピラ：いえ、違います！
兄貴分：だろ？若者の意見も取り入れねぇと誰もいなくなっちまうわな
チンピラ：勉強になります！
兄貴分：マジマ、抜けてぇのか？抜けて何すんだ?また音楽やりてぇのか？
マシマ：なにも決めてないですけど‥
兄貴分：先立つもんはあんのか？
チンピラ：あるわねぇすっよ
兄貴分：なぁ、マジマ‥‥抜けさせてやる代わりに一度、ウチの新規事業手伝ってくれよ
チンピラ：本気ですか！？

　　兄貴分は手でチンピラを待てと合図する

マシマ：‥新規事業‥ですか？

兄貴分はマシマに手招きして近くに寄せる。

兄貴分：簡単な仕事だよ。ウチの営業がお前のスマホにメッセージ入れるから、そこに行って金取ってこい
マシマ：どういうことですか？
兄貴分：寝静まった夜に、金持ちの年寄りの家に行って金目の物を拝借してくるだけだよ。一人でやれとは言わねぇよ。チームでやんのさ
マシマ：チームって
兄貴分：ホワイト案件って募集かけてっから、心配すんな
マシマ：タタキは勘弁してください
兄貴分：半分は指定する口座に振り込め。引き落としに行くやつもも用意してあっから。残りはお前らで山分けしろよ
マシマ：だって住人と鉢合わせしちまったら‥
兄貴分：年寄りしかいねぇんだから、黙らせるくらい簡単じゃねぇか。お前がやりたくねぇなら、チームの誰かにやらせたらいいんだ
マシマ：でも、オレ‥
兄貴分：お前はここを抜けたい。でも先立つものもない。オレは餞別代わりに仕事を回してやる。なんの文句があるんだ？
マシマ：‥‥
兄貴分：マジマ‥‥お前、初めてここに借り入れに来たとき、ギター持ってたな
マシマ：はい
兄貴分：あれ、どうした？
マシマ：利息が払えなくて‥‥質屋に入れました
兄貴分：そうか
兄貴分：あの頃はお前もカッコ良かったな‥おい、バンダナ取ってやれ
チンピラ：はい

チンピラはマシマの頭のバンダナを剥ぎ取る

兄貴分：威勢が良くて、突っ張らかって、元気が良かったよなぁ‥元気が良すぎて‥‥ちーと痛い思いもしたなぁ

兄貴分はマシマの額の傷を撫でてやる。

チンピラ：ちっと顔切られた位でピーピーで泣きいれてましたね

　　兄貴分はチンピラに手を差し出すとチンピラはポケットから飛び出し式の小型ナイフを渡す。

兄貴分：何回目で大人しくなったんだっけ‥‥マジマ
マシマ：に、2 回‥です
兄貴分：‥オレの餞別が受け取れねぇか‥
マシマ：‥‥すいません‥
兄貴分：ギターの弦は何本あるんだ？
マシマ：えっ？
兄貴分：何本だ？
マシマ：5 本です

　　兄貴分は飛び出し式ナイフのボタンを押すとバシン！という音がして、刃の部分が飛び出す。
　　息を飲むマシマ。
　　兄貴分がチンピラに目配せすると後ろからチンピラはマシマを後ろから押さえつけ髪を引っ張り顔を上げさせる。

兄貴分：‥あと 3 本足りねぇのか
マシマ：勘弁してください！お願いします！勘弁してください！
兄貴分：抜けたいんだろ？ケジメつけて行けよ
マシマ：お願いします！それは勘弁してください！
兄貴分：‥オレからの餞別受け取ってくれるか
マシマ：わかりました！お願いです！お願いします！

　　満足そうな顔でナイフをしまう兄貴分。

兄貴分：‥優しいだろ、オレ

　　チンピラにナイフを渡すと兄貴分は奥に帰っていく。

マシマ：勘弁してください！

　　土下座を続けるマシマ。

チンピラ：このクズが！

　　マシマの腹にケリを入れ奥に戻っていく。

マシマ：お願いします‥勘弁してください‥

ACT4
シノブ：なんの連絡だったんだ？
マシマ：うまくいってるか、確認のメールだ
シノブ：返事したのか？
マシマ：いや
シノブ：そうか
穂乃子：これでいいわ。傷が深いから化膿しないように病院に行きなさい
シノブ：ありがとう‥‥おばさん
穂乃子：私、穂乃子っていうの
シノブ：穂乃子さん、ありがとう
伴：手慣れたもんでござるな。それにしても強盗に入って、手当てしてもらってたら世話ないでござる
シノブ：うるさい！
穂乃子：‥どうしてこんなことしたの？
シノブ：‥それは‥手術する金が必要で‥
穂乃子：ご家族の誰か？
シノブ：‥‥
穂乃子：こんなことして手に入れたお金で手術が受けられたとしても、ご家族は喜ばないと思うわ
シノブ：違うんです
穂乃子：それに、女の子がこんな危険なことして‥あなたの身になにかあったら親御さんだって悲しむと思うわ
マシマ：女？
伴：ここに女はおばさんだけでござるが
穂乃子：あなた女の子よね？こんな小さな可愛らしい手をした男の人は、患者さんでも会ったことないもの
マシマ：マジか？
シノブ：‥‥男だよ、オレは

伴：もしかして‥‥エルジーなんとかってやつでござるか？
シノブ：ヨーグルトみてぇに言うんじゃねぇよ！
伴：生きたまま腸に届く！
シノブ：それはヤクルトだろ！
伴：意外と乗ってくれるでござるな！
穂乃子：真剣に悩んでる人を茶化すのは良くないわ
マシマ：その‥なんだ‥普通は、っつうかよくわかんねぇけど、男の身体した人があそこを無くすために手術するもんじゃねぇのか？お前、身体は女なんだろ？
シノブ：取りたいんだよ、オレも
マシマ：なにをだ？
伴：取りたくても初めからついてないでござろう？
シノブ：胸だよ
マシマ：そんなデカくみえねぇけど‥‥いや、そういう意味じゃなくて
シノブ：サラシまいてっから
伴：何カップあるのでござるか？
シノブ：G だよ
伴：ぐふぅ

　　伴は目眩をする仕草で片手を床につく。

シノブ：どうしたよ

　　ニコッと笑い親指を立てる伴。

伴：やるじゃない
シノブ：キモい
伴：拙者は微乳派だから巨乳には全く興味はござらんのだが国宝として認定されてもおかしくはないでごわす！まさしく燃えるおにいさんでござる！簡単に自分の身体を傷つけるんじゃなーい！
シノブ：早口キモい
伴：ヘラヘラ笑うなー！取ったらゼロになるでござる、お前はゼロの人間なのか！
シノブ：意味わかんねぇよ
伴：オレは今からお前を殴る！
穂乃子：どうして胸を取りたいの？
伴：ス、スルー‥

　　マシマは伴を制す。

穂乃子：どうして胸を取りたいの？
シノブ：女って‥汚いからさ
穂乃子：‥‥
シノブ：違う、そうじゃないんだ‥そうじゃなくて‥。オレ母子家庭で育ったんだよ。うちの母さんは夜の商売して、女を売り物にして男にすがって生きてた。生きていくために、オレを育てるために必死だったんだろうな。男たちはそこにつけ込んで母さんの身体目当てて近寄ってきてさ。それを受け入れてる母さんのことが凄く汚く見えたし、その男たちは中学生のオレのことまでそういう目で見てきた。だからオレは男を好きになれないから、女と付き合ってたんだ
伴：レズビアンでござるか？
シノブ：よくわからねぇよ
マシマ：でも、自分でもわからねぇのに切っちまうのか？
穂乃子：何か他にも理由が？

　　シノブは立ち上がりサラシを巻き直しながら身支度を整える。
　　髪型を整え、ネクタイを締めていると奥から女の声でシノブを呼ぶ声が聞こえる。

シノブ：ちょっと待ってろ

　　キャバクラ嬢のような派手な服装、派手な髪色をした女が不機嫌な様子で入ってくる。

キャバ嬢：話あるっていってんじゃん
シノブ：だから、支度終わったら聞くよ
キャバ嬢：いま聞けって！
シノブ：なんだよ
キャバ嬢：別れてくんない？
シノブ：急に
キャバ嬢：いやいや、急にじゃなくて
シノブ：この前一緒に店やろうって話したばかりだろ
キャバ嬢：それキャンセルでお願いしまーす
シノブ：不満があるなら言えよ
キャバ嬢：私さ、店でトップ 3 にはいってんの‥あんた店で何位だっけ？
シノブ：‥

キャバ嬢：そんな安くないわけ。隣にいる人間もそれなりのランクじゃないとカッコつかないの
シノブ：オレだってこのまま終わるつもりじゃー
キャバ嬢：無理でしょ。あんたのこと指名すんの物好きだけじゃん
シノブ：オレと付き合ってるお前はなんだよ？
キャバ嬢：興味本位。面白そうだったから
シノブ：そんなー
キャバ嬢：あんたの店のナンバーワンの男の子いるじゃん？昨日帰って来る前にその子とやってきたんだよね
シノブ：‥
キャバ嬢：やっぱ男の方が良かったわ。お店出すのに支援もしてくれるって
シノブ：‥‥
キャバ嬢：だんまりかよ
シノブ：部屋はどうすんだ？
キャバ嬢：私の名義で借りてんだから出てってよ
シノブ：わかった
キャバ嬢：前からムカついてたの。あんたとやってるとき

　　キャバ嬢はシノブの胸を鷲掴みして。

キャバ嬢：私よりデカくてさ

　　キャバ嬢は乱暴にシノブの胸を離して部屋を出ていく。
　　振り返りもせずに。

キャバ嬢：今日中に退去よろしく！

　　キャバ嬢は外に出ていく。

ACT5
シノブ：だから切りたいんだ
伴：わからんでござる
シノブ：お前にはわからねぇよ！
伴：胸を取れば、ヨリを戻せるでござるか？
シノブ：あんな女‥
伴：じゃあ切る必要はないでござる

穂乃子：その身体‥イヤなの？
シノブ：そういうわけじゃない‥けど
穂乃子：本当に自分が男だって感じていて、この身体は自分じゃないって思うなら、そういう手術も考えなきゃいけないけど、シノブちゃんは‥もっと考えてみても良いんじゃないかしら？
伴：八つ当たりでござろう？
マシマ：よせよ
伴：フラれた腹いせに自分の身体に八つ当たりしてるでござる。自傷行為でござる。甘えているでござるな。
シノブ：‥‥そうかもしんないな
伴：拙者、ここに来る前、シノブ殿に「何しにいくのかわかってるか？」って言われた時、カッコいいって思ったでござる。そのシノブ殿は女の身体を持った今のシノブ殿でござる
シノブ：‥‥
伴：ここに入ってからもシノブ殿は「お前は奥の部屋へ行け」って指示してくれたとき、カッコ良かったでござる
マシマ：‥オレもよくわからねぇけど、お前と立ち話したときに‥こいつが相棒で良かったって‥思ったぜ‥
シノブ：マシマ‥

　　頬を赤らめるシノブ。

伴：ちょっと待つでござる。拙者もマシマ殿も同じようなことを言ったのに、マシマ殿の時だけ頬を赤くするのはなぜでござる？
マシマ：キャラ？
シノブ：赤くなってねぇから！
伴：納得出来ないでござる！
シノブ：うるせぇ！
伴：巨乳属性の他に、チョロイン属性も持ってるでござるな！
シノブ：そういうお前は！‥何でここに来たんだよ！？
伴：‥‥久しぶりに人と話せて‥楽しくて、忘れてたでござるよ‥
マシマ：タタキに入って、楽しいってことはねぇだろ
伴：それは‥申し訳ないでござる
穂乃子：‥‥
伴：拙者もシノブ殿同様、家を追い出されたでござる。理由もシノブ殿と似てるでざるよ。

シノブ：‥言ってみろよ
伴：拙者、昔から虐められて学校もまともに行ってないでござった
シノブ：なんで虐められてたんだ？
伴：思ったことすぐ口に出してしまうでござる。そのせいで他人の気持ちがわからないだの、アスペだの‥自閉症だの言われて。小学生の修学旅行ではだれもグループに入れてくれなくて‥先生と一緒に回ったでござるよ
シノブ：わかる気はするけどな。わりぃ、続けろよ
伴：中学生になってからは登校拒否になって勉強もどんどん遅れるし、家から出ないからどんどん太っていった拙者は次第に引きこもりになってしまったでござる
マシマ：外に行こうって気にはならなかったのか？
伴：努力はしたでござる。勇気を出して中学も一度登校したでござる！
シノブ：どうだった？
伴：拙者の机は掃除入れの横に片付けられてたでござる
穂乃子：先生は力になってくれなかったの？
伴：ウチのクラスにイジメはないの一点張りで、拙者が登校すると迷惑そうでござった‥金八先生みたいな人は現実にはいないんでござるな
穂乃子：ずっと家にいたの？
シノブ：お前、パソコンとか得意そうじゃん
伴：バイトも探したでござるし、派遣もやってみたでござる。でも‥‥
シノブ：でも？
伴：一回ついた癖はなかなか抜けないでござるよ
シノブ：クセ？
伴：逃げグセでござる。バイト先でも何か嫌なことがあったらすぐバックレて、サボるようになって‥どこの派遣会社も仕事紹介してくれない、バイトの面接に行ってもこの年で職歴も何もない真っ白な履歴書の拙者を雇ってくれるとこはないでござる
シノブ：で、家を追い出されたのか？
伴：違うでござる
シノブ：なんだよ、早く言えよ！
伴：シノブ殿はせっかちでござるな！
マシマ：続けろよ
伴：両親からは腫れ物扱いされ、兄弟からはゴミを見るような目を向けられる拙者でござるが、一人拙者の味方してくれる人がいたでござる
穂乃子：誰なの？
伴：姪っ子でござる。小 2 の姪っ子だけは家族旅行に行ってもお土産を買ってきてくれて、今度は一緒に行こうねって言ってくれたでござるよ
シノブ：その子のために頑張れば良かったじゃん

伴：拙者も姪っ子と夏にみんなで海水浴に行くために、日雇いのバイトをしてお金を貯めたでござる
シノブ：なんで続けなかったんだ？
伴：拙者はいつもお土産を買ってきてくれる姪っ子に何かプレゼントしようと思って、姪っ子に聞いたでござる。そしたら姪っ子は初めてキヨくんとも一緒に行けるからって水着を欲しがったでござる
シノブ：キヨくんって‥お前が一人で買いに行ったんじゃないだろうな？
伴：そこまでバカじゃないでござる。人の目も気にするでござる。だから姪っ子と一緒にデパートの水着売り場に買いに行ったでござるよ
マシマ：で？
伴：通報されたでござる
マシマ：‥‥‥
シノブ：‥‥‥
伴：姪っ子が説明してくれて、警察沙汰にはならなかったでござるが、迎えにきた父親に思い切りなぐられて、姪っ子の母親‥妹には大泣きされたでござる
穂乃子：姪っ子さんは家族には説明してくれなかったの？
伴：してくれたでござる‥‥キヨくんはいつもやさしいんだって、大人になったら結婚するんだって‥‥かえって誤解を深めたでござる
シノブ：それで追い出されたわけか

頷く伴。

シノブ：で、どこがオレの話と似てたの？
伴：性癖を誤解されて‥
シノブ：ロリコンのお前と一緒にすんじゃねぇよ！
伴：ロリコンじゃないでござる！確かに清らかではあったでござるが‥‥
シノブ：こいつヤベェよ！
マシマ：まぁ最後まで聞いてやろうぜ

しぶしぶ頷くシノブ。

伴：何か起きてからじゃ遅い。縁を切る。今すぐ家を出ていけと言われて十万円入った封筒を渡されたでござる
シノブ：十万じゃ部屋も借りれねぇな
伴：ネカフェを転々としてるうちにお金が尽きて
マシマ：ホワイト案件だって騙されてここに来たわけだ‥

伴：誰も信じてくれなかったでござる。誰も話を聞いてくれなかったでござる。マシマ殿とシノブ殿は家を出てから初めて拙者の相手をしてくださった‥‥凄く嬉しくて役に立ちたかったでござる
穂乃子：これがうまくいってたとして、その後どうするつもりだったの？
伴：‥‥遠い親戚が避難地域だった福島の町にいるでござる。そこは去年帰宅解除されたのでござるが、誰も帰って来なくて人がほとんど住んでないという話でござる。拙者のことを誰も知らないところなら‥‥もう一度やり直せると‥‥
穂乃子：あなたたちは？
シノブ：いくとこなんかないよ。部屋も追い出されちまったし
穂乃子：どうやって手術受けるつもりだったの？
シノブ：‥‥
マシマ：あとのことなんて何も考えちゃいなかったんだオレたち。このタタキがうまくいったって、どうせ警察に捕まる。捕まったら最後、空き巣じゃなくタタキ、いや強盗だから何年もムショからは出てこれない。全部わかってたのに知らないふりをしたんだ
穂乃子：逃げたのね
マシマ：つらい日常から逃げて、変えられない、変わらない現実から逃げて、強盗するっていう非日常に逃げてきたんだ
シノブ：お前だけじゃない‥オレもだよ
伴：‥‥拙者、寂しかったでござる
マシマ：お前だけじゃない。オレも傷を舐め合える仲間が欲しかった
穂乃子：‥‥‥
マシマ：おばさん、通報してくれよ
穂乃子：‥‥
マシマ：そんで‥図々しいかもしれないけど、お願いがあるんだ
穂乃子：なに？
マシマ：オレ一人でやったことにしてくれないか？
シノブ：何言ってんだよ！
伴：マシマ殿だけカッコつけようとしてもそうはいかないでござる！拙者はもう報酬は頂いたでござるよ！
穂乃子：報酬って？
伴：みんなに話を聞いてもらって嬉しかったでござる！生きてて一番楽しい時間でござった！お金に変えられない報酬をもらってしまったでござるよ！
シノブ：伴！
伴：ルッキズムと言われても良いでござる！女性差別と受け取られても良いでござる！シノブ殿は綺麗な女の子でござる！まだまだ人生やりようがあるはず！未来があるでござる！マシマ殿だってやりたいことはあるでござろう？拙者は生きてても誰の役にも立たな

いでござる。警察には拙者が一人で行くでござる！
穂乃子：誰の役にも立たない人なんかいないわ！
伴：それは嘘でござる！
穂乃子：嘘じゃないわ！
伴：拙者がマシマ殿ような外見ならきっとデパートで通報されなかったでござる！！こんなルックスじゃなければここまで面接で落とされることもなかったでござる！拙者みたいな豚は生きてる価値がないでござる！

　　マシマは少し間をおいてからフッと笑って伴に話しかける。

マシマ：動物も大事にしろよ、愛護団体に怒られるぞ
シノブ：伴、お前はいいヤツだよ！
穂乃子：‥‥あなたの話は？
マシマ：オレは‥‥‥
シノブ：言えない理由なのか？
穂乃子：私の息子ね、音楽やってるのよ‥‥あなたがずっと大事そうに持ってるそのギター‥息子のなの
マシマ：‥
穂乃子：身体が弱くて、今療養してるの

　　マシマがギターをゆっくり置こうとする。

穂乃子：何か弾いてくれない？
マシマ：オレもうやめたから‥‥
穂乃子：あなたちのお願いを聞く代わりに、私のお願いも聞いて
マシマ：‥‥
穂乃子：良いじゃない、一曲だけ

　　しばしの間。
　　マシマはギターを弾き始める。
　　マシマは「アンダルシアに憧れて」を弾き語る。

マシマ：オレ、ケジメつけないといけないんですよ
シノブ：マシマ、一緒に逃げようぜ
マシマ：オレ、こいつらと違ってガラ押さえられてってから‥‥警察な捕まるか、詫び入れにいくかしねぇと

伴：そんなもんバックレれば良いでござるよ！数々の派遣会社をバックレれてきたゴールドバックラーの拙者が教えるでござる！
マシマ：お前らはホントいいヤツだよ
伴：マシマ殿もシノブ殿も行くとこがないのでござれば福島に一緒に行けば良いでござる！しばらく会ってない遠い親戚でござるが、きっと悪いようにはしないはずでござる！
穂乃子：明日の朝、うちの旦那が帰って来るの。それまでに家のなか片付けなくちゃいけないわね‥‥手伝ってくれる？
マシマ：あぁ、もちろん。なぁ
穂乃子：あなた達はここに掃除の手伝いに来てくれたの。もちろんバイト代も三人分出すわ‥福島までの
シノブ：おばさん
穂乃子：あなたには、そのギターもあげるわ
マシマ：こんな大事なもの‥
穂乃子：あなたに持っててほしいの。そして今日のことを忘れないで頂戴

静かに頷くマシマ。

穂乃子：そうと決まれば、さぁ、綺麗にしてもらうわよ！

それぞれ掃除を始める。

ACT6

三人は玄関に並んでいる。

シノブ：強盗に入ったのに‥こんな良くしてもらって‥‥本当にすみませんでした
穂乃子：二度とこんなことしちゃダメよ
シノブ：はい
穂乃子：自分を大事にしなさい
シノブ：‥‥お母さんと話すって‥こういう感じなのかな
穂乃子：伴くん、福島までしっかり道案内頼むわよ
伴：任せてほしいでござる！‥‥拙者、向こうで農業をやりたいでござる
シノブ：お前にしては良い考えじゃん
伴：その‥今もまだ、放射線とか風評に混じってデマを流す連中もいるでござるが‥もし嫌じゃなければ‥‥何年かかるかわからないでござるが‥‥収穫出来たら穂乃子さんに一番に送らせてほしいでござる！
穂乃子：楽しみに待ってるわ

シノブ：オレにも手伝わせろよ！
穂乃子：ゆっくりで構わないわ‥マシマくん‥まだ迷ってるの？
マシマ：そういうわけじゃないけど‥
穂乃子：一度、悪い道から逃げたんなら、最後まで逃げ切りなさい。振り向かないで真っすぐ生きて行きなさい‥‥約束よ
マシマ：はい
穂乃子：ほら、始発に遅れるわよ

　　三人は家を出ようとする。
　　マシマは振り返って。

マシマ：夢みたいだ
穂乃子：何言ってるの。これから新しい日々が始まっていくのよ
マシマ：大切にします

　　出ようとする三人に穂乃子は声をかける。

穂乃子：次に来る時は勝手口じゃなくて、玄関からいらっしゃい

三人：はい！

　　見送る穂乃子。

ACT 7
　　暗い舞台に太陽の光が入る。
　　穂乃子は写真の飾られているサイドボードの鏡を見る。

穂乃子：あの子達が無事に生きていけますように

　　穂乃子が目を瞑り祈りを捧げると太陽の光が鏡に反射して、穂乃子の胸が光が照らされる。
　　玉砂利の上を歩くような音が聞こえ、その音は段々と穂乃子に近づいてくる。
　　穂乃子は振り向き。

穂乃子：おかえりなさい

ACT8

舞台の上は暗転したまま、声だけが聞こえてくる。

女：あけましておめでとう
女 2：おめでとうございます。今年も宜しくお願いします
女：ねぇ、昨日の夜うるさくなかった？
女 2：家族で出かけてたから‥‥なんかあったの？
女：今、修繕中の神社あるでしょ？
女 2：裏の？
女：そうそう！そこで夜に若者たちが騒いでみたい！
女 2：若者は年末年始も関係ないんだね
女：私たちも若い頃は元気だった‥ってそうじゃなくて！
女 2：なによ
女：変なの！
女 2：変て？
女：今朝、行ってみたら綺麗になってたの
女 2：へぇー
女：へぇーじゃなくて！騒いだ後に掃除していったみたいなの！
女 2：偉いじゃない。散らかし放題にしていく子も多いのに
女：‥‥そういう考え方もあるのかしら
女 2：そうよ。大晦日に神社掃除していくなんて偉いと思うわ
女：‥ところでさ‥あそこの神様ってなんだっけ？
女 2：たしか‥祓いの神様で‥‥女の神様だったような‥‥

終